

平成 30 年度西東京市図書館事業評価

図書館基本計画・展望計画の中間報告以後の実施計画に基づいた 30 年度の目標に対する事業評価を次の指標により評価を実施した。

評価	指標
A	30 年度目標として掲げた内容を上回る成果を出した
B	30 年度目標を概ね達成した
C	30 年度目標を一部達成した

事業番号	Ⅱ-1-1	計画内容	資料計画—一般図書資料	担当部門	成人								
中間報告以後の実施計画													
<ul style="list-style-type: none"> ・利用の拡大を行うため、中央図書館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。 													
5年間の獲得目標													
<ul style="list-style-type: none"> ・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。 ・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。 ・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせませす。 													
30 年度目標													
(1) 利便性の高い魅力ある書架づくりをすすめ、資料の活用を促進します。													
30 年度実績													
<p>(1) 中央図書館のコンピュータ関連資料分類を基準として、保谷駅前図書館・ひばりが丘図書館の同書架分類を再構築し、時勢に合致したものに変更しました。</p> <p>結果、分類変更後 2 ヶ月間の蔵書回転率が、1 年前の同時期と比較し以下のように変化しました。</p> <p>(比較期間：【2018/1/4～2018/3/4】→【2019/1/4～2019/3/4】)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>保谷駅前</td> <td>0.98 回</td> <td>→</td> <td>1.12 回</td> </tr> <tr> <td>ひばりが丘</td> <td>1.21 回</td> <td>→</td> <td>1.41 回</td> </tr> </tbody> </table>						保谷駅前	0.98 回	→	1.12 回	ひばりが丘	1.21 回	→	1.41 回
保谷駅前	0.98 回	→	1.12 回										
ひばりが丘	1.21 回	→	1.41 回										
自己評価・取組み改善点													
<p>(1) 分類ラベル位置を揃え、見出し板を作成したことにより、利用者がブラウジングしやすい書架にしました。</p> <p>また、分類方針をマニュアル化することにより、職員・嘱託員の資料装備や配架にかかる煩雑さを解消しました。</p>					A								
図書館協議会委員による二次評価													
<p>利用者 と 図書館職員 双方に配慮した取組みで成果があがっていることは、大いに評価できます。</p> <p>書架分類の再構築により利用者が資料を探しやすくなり、蔵書回転率の向上に結び付くなどの工夫は評価できます。</p> <p>利用頻度の高い分類などは資料の数も多いので、さらなる使いやすさの工夫がされていくことを期待しています。</p>					A								

事業番号	Ⅱ-1-4	計画内容	資料計画-レファレンス資料	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。 書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> 開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新（資料の除架・除籍、移動、購入等）を順次実施します。 					
30年度目標					
<ul style="list-style-type: none"> （1）昨年度に引き続き中央書庫の整理・保存と開架資料の活性化を図ります。 （2）レファレンスニーズに沿った資料の購入を実施します。 					
30年度実績					
<ul style="list-style-type: none"> （1）レファレンス資料計250冊を中央図書館書庫からひばりが丘図書館の閉架書庫へ移動し、中央で継続購入している資料の保存スペースを確保しました。 （2）各館からレファレンス記録（222件）を収集し、質問の多い分野の分析を行い、分析の結果から、民俗・文化に関する資料を19冊購入しました。また、西東京市の外国人住民・国籍別人口調査の数字に基づき、語学辞典（フィリピン・ベトナム）を3冊購入しました。 					
自己評価・取組み改善点					
<ul style="list-style-type: none"> （1）刊行が続いている資料の保存スペースを確保しました。引き続き、紙資料の保存に留意していきます。 （2）実績に基づいた資料を購入し、レファレンスニーズに対応しました。年度末までの最終集計より、医療系のレファレンスが多く見られたため、同分野のレファレンス資料の見直しと強化を行います。 					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>レファレンス記録の分析に基づいた対応で、建設的な整理が行われ、開架室の活性化につながっていると思います。レファレンスツールの充実については、紙資料スペースの限界もあるので、有用なオンラインツールを上手に組み入れていくことが望まれます。</p>					A

事業番号	Ⅱ-1-5-1	計画内容	資料計画－児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語資料を5年間で300冊購入します。 ・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を10%とします。 					
30年度目標					
(1) 欧米言語以外を含め、外国語資料の継続購入をすすめます。					
30年度実績					
<p>(1) 30年度は日本の絵本の翻訳作品を中心に、中国語・韓国語絵本21冊を購入しました。児童書における外国語資料の所蔵冊数は2,345冊となり、欧米言語以外の資料は260冊で目標の10%を維持しました。</p> <p>外国語資料の購入冊数は5年間で累計545冊、目標に対して55.0%上回りました。</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) 中央・ひばりが丘図書館で、英語・中国語・韓国語表記でそれぞれの言語の絵本の配置案内を掲示しました。また、同じタイトルの絵本を日本語・英語・中国語・韓国語版で揃えた展示（「いろいろな国の言葉で読もう」）や、普段の書架配置においても、表紙を見せて配架するなど利用者の目に触れるようにしました。また、継続して行っているハンディキャップサービスとの共同企画「英語・中国語・韓国語できくいろんなことばでたのしむおはなし会」で英語・中国語・韓国語版の絵本が活用しています。</p> <p>昨年度より2館とも回転率は、中央は3倍、ひばりは10倍に伸びており、PRの効果が考えられます。</p> <p>外国語資料については、今後も継続して購入していきます。</p>					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>同じタイトルの多言語絵本を揃えた配架は、外国人住民にとっても日本人住民にとっても多文化・多言語に触れる機会の充実につながり、多文化共生の地域づくりに貢献する取組みだと思えます。特に絵本は、小さな子どもとその保護者という、大人と子どもの両方に働きかける有効なツールです。今後もその充実に期待します。</p> <p>言語の種類が増えると選書体制が大変にはなりますが、継続的にフォローし、常に新鮮なコレクションが維持されるための体制を整えていかれることを希望します。</p>					A

事業番号	II-1-5-2	計画内容	資料計画－児童・青少年図書資料	担当部門	児童・青少年																		
中間報告以後の実施計画																							
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングアダルト資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成 25 年度ではヤングアダルト購入冊数の 19%であったノンフィクション資料を、前年度比 2%程度増を目安として購入をすすめます。 ・平成 26 年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に 1 回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。 																							
5 年間の獲得目標																							
<ul style="list-style-type: none"> ・ノンフィクション資料の充実を図るため、5 年間でノンフィクション資料の購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。 																							
30 年度目標																							
(1) ノンフィクション資料を充実させます。購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。																							
30 年度実績																							
<p>(1) ノンフィクション資料をヤングアダルト全体で 345 冊購入しました。ヤングアダルト購入冊数全体 (983 冊) のノンフィクション資料割合は 35%となりました。</p> <p>28 年度から 29 年度にかけて行った中央図書館・ひばりが丘図書館のヤングアダルトコーナーリニューアルにおいて新設したテーマ展示について、貸出状況を調査しました。調査の結果と本のリクエスト状況を踏まえ、中央図書館では需要の大きい「勉強法」の本についてさらに購入を行い、新しい情報が載っている本を増やしました。結果、29 年以降に出版された本が 61%となりました。また、「ピンチ」の本の中でも特に「いじめや学校の間人間関係に関する本」の需要を鑑み、新しい本を増やしました。(29 年以降に出版された本を 7 冊購入しました。)</p> <p>30 年度のテーマ展示蔵書回転率 (貸出回数 ÷ 対象蔵書冊数)</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="5">中央</td> <td>勉強法</td> <td>9.09 回</td> </tr> <tr> <td>恋愛・性</td> <td>3.09 回</td> </tr> <tr> <td>ピンチ</td> <td>3.65 回 (この内、いじめや学校の間人間関係に関する本 8.38 回)</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>1.42 回</td> </tr> <tr> <td>進路</td> <td>3.62 回</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ひばりが丘</td> <td>進路</td> <td>4.04 回</td> </tr> <tr> <td>部活</td> <td>3.82 回</td> </tr> <tr> <td>勉強法</td> <td>9.78 回</td> </tr> </table>						中央	勉強法	9.09 回	恋愛・性	3.09 回	ピンチ	3.65 回 (この内、いじめや学校の間人間関係に関する本 8.38 回)	就職	1.42 回	進路	3.62 回	ひばりが丘	進路	4.04 回	部活	3.82 回	勉強法	9.78 回
中央	勉強法	9.09 回																					
	恋愛・性	3.09 回																					
	ピンチ	3.65 回 (この内、いじめや学校の間人間関係に関する本 8.38 回)																					
	就職	1.42 回																					
	進路	3.62 回																					
ひばりが丘	進路	4.04 回																					
	部活	3.82 回																					
	勉強法	9.78 回																					
自己評価・取組み改善点																							
(1) ヤングアダルト購入冊数全体 (983 冊) のノンフィクション資料割合は 35%、目標値を上回りました。今後も維持していきます。また、テーマ展示についても、通常の知識の本棚にあるものより貸出がされており、特に勉強法と、いじめや学校の間人間関係に関する情報への関心の高さが伺えます。今後も積極的購入を行い、需要に応じていきます。					A																		
図書館協議会委員による二次評価																							
<p>関心の高い分野を把握し、ノンフィクション資料の充実を図ることに着目してコレクション構築を進めた取組みは評価できます。若い世代のニーズに応じていくことは図書館の発展にもつながるはずです。この世代はまずは図書館に来てもらうことが大切ですので、「行きたい」と思える図書館のニーズを把握するために、直接、意見を聞けるような場の設定などがあるとなおよいのではないかと感じます。</p>					A																		

事業番号	Ⅱ-1-6	計画内容	資料計画ー地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・第2次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。 					
30年度目標					
(1) 原本劣化が懸念される資料、館内閲覧や公開により利便性が増す資料の電子化を進めます。					
30年度実績					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 市史編纂資料として原本を移管されている文書の電子化を進めました。対象とした資料数は324点、画像数にすると12,256点となります。 (2) 新聞折込広告4,047枚の電子化により、平成13年6月（5月を除く）までの画像が館内で閲覧できるようになりました。 (3) 館内閲覧と保存を目的に地域紙『週刊東興通信』（1958.10.29～2008.9.24 終刊）の原紙を、当時の発行人より許諾を得て、デジタル化しました。 					
自己評価・取組み改善点					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 市史編纂資料の電子化は、平成28年度の開始から3年間で、原本もしくは原本の画像（マイクロ・写真）を主として移管された21シリーズのほぼ全て（資料数7,191点）の電子化が終了しました。 (2) 新聞折込広告の電子化は予算内で可能な数を進めることができました。 (3) 『週刊東興通信』の古いものは原本劣化が進み、閲覧も慎重になっていましたが、デジタル画像で館内閲覧が可能となり、調査等の利便性が高まりました。館内での閲覧と同時に、プリントアウトが実施できれば充実したサービスになると考えます。 					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>地域・行政資料のデジタル化は、地域の図書館の大切な仕事です。将来性、利便性などを考え資料のデジタル化を推進してください。また、改善点として掲げられたプリントアウトは著作権者との調整を検討ください。</p>					A

事業番号	II-1-7-1	計画内容	資料計画－音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・デージー図書の作製を進めます。目標 800 タイトルのうち、前期計画期間の 5 年間で 450 タイトルのデージー図書を作製しました。今後 5 年間に 350 タイトルを作製します。 					
5 年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・今後 5 年間で 350 タイトルのデージー図書を作製します。 					
30 年度目標					
(1) 利用者からのリクエストに応じてデージー図書（プライベート含）を作製します。					
30 年度実績					
<p>(1) 利用者からリクエストされた図書のうち、作製したデージー図書は 52 タイトル、全戸配布した市刊行物（健康事業ガイド）及びプライベートで作製したデージー図書は計 6 タイトル。合計 58 タイトルを作製。</p> <p>平成 26 年度から累計 297 タイトル作製しました。目標には達しませんでした。音訳者の協力により 85% の達成率となりました。</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) 音訳者の確保・育成として、初級と中級養成講座を毎年交互に開催、今年度は 9 期生として 14 人初級養成講座全 10 回を実施しました。また音訳レベルを維持していくために現役音訳者にレベルアップ研修も全 11 回実施しました。デージー録音のための研修（3 日連続研修）を実施しました。今後も後継者の育成・レベルアップの強化を図ります。</p>					B
図書館協議会委員による二次評価					
<p>デージー図書の作製は利用者の要望、音訳者の作業能力など外的要因が大きいと思います。今年度実績で 58 タイトルを作成したことを評価します。音訳者の確保、育成に時間と手間が掛かりますが、今後も研修体制の継続・充実により音訳者の養成に努めてください。</p>					A

事業番号	Ⅱ-1-7-2	計画内容	資料計画—音声資料・点字資料等	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスに登録し、作製したデジタイズ図書をアップロードして、全国の図書館や点字図書館に資料の提供を行います。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への資料の貸出しを含め、情報提供を拡大するため、デジタイズ図書 800 タイトルのアップロードを目指します。 					
30年度目標					
(1) 昨年度並みの 200 タイトルのデジタイズ図書タイトルのアップロードを目指します。					
30年度実績					
<p>(1) 33 タイトルのデジタイズ図書データを国会図書館へ提出しました。 国会図書館にこれまでアップロードされたタイトル数は 333 タイトルになりました。(目標達成率約 42%)。333 タイトルの利用状況(ダウンロード回数)は合計 4,352 回(30年度)ありました。</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) デジタイズ図書を作り始めてから 29 年度までに作製したものを、品質に問題がないか分別しながら、提供できるものだけを国会図書館にデータ送信していたので 30 年度は僅かな数になりました。 目標まで達しなかった要因は音源が古いカセットテープをデジタイズ図書にしたため、音質に問題があったものでした。 今後は作製した年度中に国会図書館にデータを提供していきます。</p>					B
図書館協議会委員による二次評価					
<p>サービス対象者の要件が変わり、対象者が増加していく中、市内の利用者が使いやすくなるようなサービス体制の充実や広報が望まれます。 また、他機関との協力体制も継続して、より一層、サービスが進められていくことを期待しています。ハンディキャップサービスは大変地道な仕事であり、タイトル数に拘らず着実に進めてください。</p>					B

事業番号	II-2-1-1(1)	計画内容	サービス計画-成人	担当部門	成人
中間報告以後の実施計画					
・市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。					
5年間の獲得目標					
・健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。					
30年度目標					
(1) 課題解決支援の一環として、法律情報コーナーに関連した講演会を実施するとともに、コーナーの資料の活用を促します。					
30年度実績					
<p>(1) 法律情報コーナー開始から平成30年度末までのコーナー蔵書回転数は3.6回となりました。通常法律書架の同期間蔵書回転数3.9回と比べ少ないですが、これは実用書が多数含まれる通常書架に比べ、法律情報コーナーには六法を多く揃えたことが原因のひとつと考えられます。</p> <p>(2) 法テラス弁護士を講師に招き、法律情報コーナーで配布中のリーフレットのうち最も需要のあった相続に関する講演会を実施しました(11月)。 講演テーマに合致した所蔵資料を講演中に紹介する等、講演内容にコーナーのPRを組み込みました。 演題：『争族』にならないために～知っておきたい初めての相続～ 参加者：28名</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よくわかった」「勉強になった」等の好意的な記入。15/19(78.9%) ・そのほか、「遺留分・分割方法について聞きたかった」等の具体的な要望や、「(紹介したコーナーの資料について)読んでみたいと思います」という図書館資料への興味をおもわせるものがあり、資料としての需要が多いジャンルに対して、講演会を通して更に専門的な情報を提供することの効果を感じました。 <p>今後も、図書資料に留まらず、利用者のニーズを把握しながら専門家の講演を継続して行う予定です。</p> <p>(2) 今後のコーナーについて</p> <p>利用者より、判例雑誌の保存期限の延長を望む声がありました。当該雑誌に関しては内容を鑑み、長期保存を検討します。</p>					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>市民はいろいろな課題をもって生活しています。図書館が行う課題解決支援は大切なサービスです。30年度に行われた法律情報提供は資料の収集・提供にとどまらず、関連講演会を実施することで課題解決として有効であると考えます。引き続き課題解決に役立つ資料・情報につながる取組みを期待します。また、市民の課題解決のために市や福祉の窓口につながる情報提供は重要だと思います。</p>					A

事業番号	Ⅱ-2-1-1(2)	計画内容	サービス計画-成人	担当部門	成人
中間報告以後の実施計画					
・成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。					
5年間の獲得目標					
・他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。					
30年度目標					
(1) 昨年度新設した英語多読コーナーの資料の更なる PR と活用促進をはかります。					
30年度実績					
<p>(1) ひばりが丘図書館に英語多読コーナーを新設しました。それに伴い、多読資料を7シリーズ増やしました。今後は、中央・ひばりが丘の2館で多読コーナーを展開していきます。</p> <p>蔵書回転数は開設当初は2シリーズから開始しシリーズ数を増やしたため、徐々に増加する結果となっています。</p> <p>2019/2/1～3/31 0.80回</p> <p>2019/4/1～5/23 1.93回</p> <p>英語多読に関する講座を2回実施しました。</p> <p>演題：英語多読 はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～ (10月)</p> <p>参加者：61名</p> <p>演題：英語多読 文字から音へ！～英会話への入口～ (31年2月)</p> <p>参加者：62名</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語多読について知っていたか」について <p>昨年度アンケートでは「知っていた」が48%に対し、今年度は1回目が64%、2回目が58%となりました。英語多読コーナー設置により認知度が上がったこと、今年度1回目から2回目の比率が下がったことに関しては、新規の参加者が増加したことが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座への参加理由を「子どもの教育のため」を選択した人数と親子参加組数は、 <p>1回目：4/39 親子参加5組</p> <p>2回目：9/43 親子参加6組</p> <p>となり、以前に比べ子育て世代への図書館利用を促す契機となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由記入欄より、「よかった」「楽しかった」「面白かった」等好意的な記入 <p>1回目：19/22 (86%)</p> <p>2回目：22/26 (84%)</p> <p>(2) 2回目の講座終了後、参加者より自発的に市民サークルが発足しました。3月の初回集会では、発起人3名のほか、16名の参加があったとの報告がありました。今後、図書館としての関わり方について検討・整理を行います。</p>					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>英語熱の高まりに対して図書館がどのような役割を担うかの検討が必要でしょう。しかしながら多読という行為に関して図書館はもっとも有効な機関です。今年度の取組みについては、多読コーナーの認知度も上がり、評価できるものでした。</p> <p>今後もそのほかの多様なサービスに取組まれることを期待しています。</p>					A

事業番号	Ⅱ-2-2	計画内容	サービス計画ー児童・青少年	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会の充実を図ります。 ・行事のPRについて充実を図ります。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・全館での1・2歳児向けおはなし会を実施します。 ・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。 					
30年度目標					
(1) おはなし会の充実					
30年度実績					
<p>(1) 定例以外のおはなし会全館実施 19回 (平均22.8人)</p> <p>内小学生限定おはなし会 柳沢図書館・ひばりが丘図書館実施 2回 32人参加</p> <p>おはなし会ボランティアフォローアップ研修 連続講座(全2回) 52名 予算額40,000円</p> <p>全館での1・2歳児向けおはなし会を各館で月2回以上実施(芝久保のみ月1回)しました。</p> <p>参加率は全体平均11.4人</p> <p>中央 23回 平均13.5人 保谷駅前 24回 平均8.8人</p> <p>芝久保 12回 平均15.8人 谷戸 24回 平均15.8人</p> <p>柳沢 24回 平均16.9人 ひばりが丘 36回 平均10.4人</p> <p>3歳児以上向け 定例おはなし会 全館294回(参加平均11.0人)</p> <p>児童館等共催 中央・保谷 21回 平均10.6人</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) 定例のおはなし会では小学生の参加が少ないため、小学生限定のおはなし会を実施しています。小学生が参加しやすいよう長期休暇に合わせ、内容も小学生向けとしています。</p> <p>1・2歳児向けおはなし会は各館常に一定の参加者数があり、事業は定着してきました。</p> <p>おはなし会ボランティアを対象にフォローアップ研修や、合同会議を実施しています。フォローアップ研修では、読み聞かせの講師を招いての講座、合同会議では職員によるおすすめ絵本の紹介などを行い、おはなし会の質の向上も継続して行っています。</p>					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>おはなし会は幼児期からの読み能力の向上に繋がるものです。おはなし会の活動を通して読書の楽しさを知る良い機会になっていると評価します。</p> <p>おはなし会の実施だけでなく、おはなし会のスタッフに対する研修は質の維持・向上の点で大変評価できます。小学生向けのおはなし会の工夫などもされているようですが、なお一層の向上を望みます。</p>					A

事業番号	Ⅱ-2-2	計画内容	サービス計画－児童・青少年	担当部門	児童・青少年
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォロー事業を3歳児健診時に実施します。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォロー事業を3歳児健診時に実施します。 					
30年度目標					
(1) 絵本と子育て事業・3歳児フォロー事業の継続実施。					
30年度実績					
(1) 絵本と子育て事業 絵本配布率 30年度99.7% (29年度99.7%) 3歳児フォロー事業 30年度実施回数30回(内講師あり22回・参加率11.5%) (29年度実施20回(内講師あり15回・参加率10.9)8月から開始。)					
自己評価・取組み改善点					
(1) 絵本と子育て事業は健診会場と同じフロアということもあり、高い配布率を維持し、事業が定着したといえます。30年度からは配布する絵本を対象者自身が選べるようになり(2種類から1冊)対象者からは好評です。 3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が離れている難点があり、参加率の伸びにつながりませんでした。案内の際、事業参加を促すと共に、会場に行かない親子にも、わずかな時間でも3歳児やその保護者へもれなく声かけできる貴重な機会なので、図書館やおはなし会の案内、読み聞かせについてのお話などPRを積極的に行い、子育てにおける絵本の大切さを伝える機会としたいと思います。 実際に事業に参加した方の様子は、飾りつけやレイアウトを工夫した会場に長く滞在し、読み聞かせをゆっくり楽しまれている親子が多いです。					B
図書館協議会委員による二次評価					
絵本と子育て事業は絵本の配布率も高く評価することができますが、3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が違うため参加率が低いようです。よい取組みであると思いますのでより一層の参加率の向上に努めてください。					B

事業番号	II-2-3-1(5)	計画内容	サービス計画－レファレンス	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へレファレンスサービスをPRし、利用者には有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。 ・情報弱者の解消に向け、利用者には役立つ方策について検討し、具体化します。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機（OPAC）の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、5年間で100回以上の実施を目標とします。 					
30年度目標					
<p>(1) 利用者向けにデータベースの講演会およびショートセミナーを開催し、利用者の調査研究を支援します。</p> <p>(2) レファレンスサービスのPRを行います。</p>					
30年度実績					
<p>(1) ①百科事典ポプラディアを利用した、子ども向け調べ方講座を開催しました（8月）。 演題：「きみも調べ方マスター！百科事典ポプラディア講座」 参加者：11名（子ども9名、付き添い2名）</p> <p>②15分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーを3回実施しました（7・8月）。 演題：有料データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」ショートセミナー 参加者：2名（使用端末2台） 演題：データベース「国立国会図書館デジタルコレクション」ショートセミナー 参加者：6名（使用端末2台） 演題：データベース「国立国会図書館歴史的音源」ショートセミナー 参加者：2名（使用端末2台）</p> <p>③データベースアクセス数は下記のように増加が見られました。 聞蔵Ⅱビジュアル：30年度64回（29年度42回） 国立国会図書館デジタルコレクション：30年度790回（29年度278回）（閲覧数） 国立国会図書館歴史的音源：30年度43回（29年度32回）</p> <p>(2) 「図書館だより73号」の一面にレファレンスサービスの特集を組み、レファレンス事例や、Webレファレンスの案内等サービスの紹介を掲載しました。</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) アンケートでは、約87%が「とてもよかった」「よかった」と回答（残りの13%は無回答）。感想には「自由研究の参考になった」「色々な調べ方があってびっくりした」等の意見があり、熱心にノートを取っている参加者もいました。自由研究、児童という切り口から、レファレンス資料のPRをすることには効果を感じました。 ショートセミナーでは、絞込み検索の方法についてや、落語の検索について質問が出ました。アクセス数の増加から、参加者だけでなくポスターや当日の呼び込みにより、データベースの周知に一定の効果があつたと考えられます。今後は開催回数や開催館について検討を進めます。</p> <p>(2) 図書館だよりの特集を見てレファレンスサービスを申し込んだ利用者もおり、PRの効果を感じました。</p>					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>子ども向け調べ方講座は将来の情報リテラシーを育てる意味からも意欲的に取組んでほしい取組みだと評価します。また、大人を対象としたショートセミナーは、デジタル資料に対しても図書館が積極的に取組んでいることを具体的に示す事業であると評価します。ニーズを見ながら、様々な年代を対象にした調べ方講座の実施、セミナーの回数や方法などを今後も検討してください。</p>					A

事業番号	Ⅱ-2-3-3(3)	計画内容	サービス計画ーレファレンス	担当部門	レファレンス
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> 職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。 外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> 職員・嘱託員の研修を充実させるため、25年度（200時間）比5%ずつの増加を目標とします。 					
30年度目標					
<ol style="list-style-type: none"> 図書館員むけのレファレンス研修を実施し、基礎的なレファレンス知識の獲得を目指します。 レファレンス記録の集積・活用を目指します。 レファレンスだよりを発行し、全館的なレファレンスへの関心・スキル向上をねらいます。 外部研修に積極的に参加し、得た知見の還元をこころがけます。 					
30年度実績					
<ol style="list-style-type: none"> レファレンス研修を行いました。 内容：国立国会図書館派遣型研修「国立国会図書館を使いこなす」（6月15日） 対象：西東京市全館図書館員 レファレンス記録数：222件 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録数：222件、国立国会図書館長から御礼状が送付されました（年間データ登録件数が200件以上となった館を対象に送られる）。 西東京市全館図書館員を対象にした「レファレンスだより」を2回発行し、レファレンス記録の集計報告や購入資料の紹介、外部研修で学んだ知識の共有を行いました。 レファレンス担当が、都立図書館のレファレンス研修に参加しました。研修の内容を一部「レファレンスだより」にて紹介しました。 内容：「美術情報」「法律情報」「新聞・雑誌情報」 					
自己評価・取組み改善点					
<ol style="list-style-type: none"> 国立国会図書館から講師を招き、レファレンスに役立つデータベースや蔵書検索のポイントなどのレクチャーを受けました。受講者からは「各データベースの違いと活用方法がよくわかった」「実際に操作したり課題があると更に良かった」といった意見が寄せられました。今後も引き続き、レクチャーを受けたデータベースやその活用事例を紹介することで、知識の定着を目指します。 記録の集計をもとに、資料購入や所蔵館を検討できるようになりました（平成29年度302件 平成30年度222件）。今後はレファレンス記録を使った研修を検討します。 西東京市で実際にあった事例を元にした内容にすることで、すぐに使える知識を共有できました。今後はデータベースの使い方や、レファレンスインタビューについて知識の共有を行い、内容の充実を目指します。 西東京市でもレファレンスの多い、「美術情報」について外部研修に参加し、その内容を「レファレンスだより」にて共有しました。発行後、掲載したレファレンス資料を使用した事例もあり、一定の効果がありました。 					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>今年度の4つの目標に対して的確に事業を遂行していると考えます。一般的なテーマの研修だけでなく、ニーズの多い専門分野の研修、データベース研修など、積極的に取組み、スキルの向上を目指すことを期待します。職員を対象とした「レファレンスだより」を充実し、全館、全職員でレファレンス業務の共有化を進めてください。</p>					A

事業番号	II-2-4-1(5)	計画内容	サービス計画ー地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> 西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> 相談、支援、調査、事業開催に努めます。 					
30年度目標					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 夏休みの子ども向けイベントを図書館全体で企画・広報し、図書館利用の促進を図ります。 (2) 地域の歴史をわかりやすく学ぶ場としての子ども向け講演会を昨年度に引き続き開催します。 (3) 西東京市縁講演会を引き続き開催します。 (4) 図書館だより等で、情報提供を継続します。 					
30年度実績					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 夏休みの子ども向けイベントを図書館全体で広報西東京市（市報）掲載し、ちらしも作成しました。 (2) 児童と地域・行政資料の2つのサービス部門による夏休みの子ども向け合同企画 <ul style="list-style-type: none"> ①演題：「ソウセキさんに学ぶ『なんだ、これでいいんだ！』おもしろ手紙教室」 講師：中川越 7月27日 谷戸公民館 子ども11名参加 ②演題：「田の無い村と武士になった村長さん」 講師：行田健晃 8月17日 谷戸公民館 子ども12名参加 (3) 西東京市在住の縁の文化人を講師に招き、3回の講演会を実施 参加者計97名 <ul style="list-style-type: none"> ①演題：「西東京市における空襲と戦争遺跡」 講師：牛田守彦 10月14日 柳沢公民館 46名 ②演題：「仏像の世界」 講師：田中義恭 10月20日 田無公民館 94名 ③演題：「武蔵野の雑木林再生」 講師：池田干城 田無公民館 22名 (4) ①「図書館だより」に講演会の報告を掲載しました。 ②ホームページに講演会講師の協力により講演会の概要報告やまとめを掲載しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・牛田氏による講演内容の要点をまとめた原稿 ・田中氏の講演記録 ③「図書館だより」での『にんにん西東京』は第20～22回を更新しました。 					
自己評価・取組み改善点					
<ul style="list-style-type: none"> (1) 夏休みの子ども向けイベントを図書館全体で企画・広報したことは、参加したい行事を選びやすかったと言う保護者の声もあったので、次年度以降はさらに工夫を加えて発信したいと考えます。 (2) 子ども向けの企画は、児童サービス担当と合同で進めたことで対象に沿った準備ができました。在住の手紙文化研究家の中川氏によるお手紙教室は、知識と共に作品ができあがる楽しさがあり、近世の研究者である行田氏による歴史講座は、田無・保谷の村の様子や江戸時代のお金の価値や暮らしを画像や実物の古文書を使って興味を引き出しながら進められ、どちらも好評でした。講師やテーマを見極めて、継続して取り組むことが課題です。 (3) 継続実施している西東京市縁講演会は、終了後「図書館だより」での報告のほかに、詳細をHPに掲載することで、参加できなかった方にも内容を発信することができました。 					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>子ども向けイベントで、児童サービス担当と協同で当たったことは運営上、よいことだと評価できます。今後も関係部署と協力体制を維持していくよう期待します。</p> <p>講演会の概要は、HPに掲載されると参加できなかった方へのPRにもなり、次の催しへの期待感へとつながることもあるので、今後も掲載できるよう期待します。</p>					A

事業番号	II-2-4-2(1)	計画内容	サービス計画-地域・行政資料	担当部門	地域・行政資料
中間報告以後の実施計画					
<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実に努めます。 					
5年間の獲得目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。 ・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。 ・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。 					
30年度目標					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 中央図書館1階の地域・行政資料コーナーの整備。 (2) 地域・行政資料室の書架を利用者にとって使いやすい構成に改善します。 (3) 芝久保図書館の書庫の地域・行政資料コーナーを有効に活用します。 					
30年度実績					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 中央図書館1階において、縁のコーナーを広げ、古文書学習者向け資料と書庫から出納していた全集等をまとめて手の届きやすい書架(4連分)に、請求記号順に配架していた東京都関連資料のうち東京都発行資料も別置きしました。同時に見出し板の色分けを行いました。 (2) 地域・行政資料室において、ファイルや保存箱に収集してきたページ数の少ない逐次刊行物を製本して配架した。結果、省スペースと共に、閲覧しやすい書架に改善できました。 (3) 芝久保図書館の書庫にあった保存検討用の新聞切抜きを精査し、空いたスペースに電子化済の市史編纂資料を収めた。 					
自己評価・取組み改善点					
<ol style="list-style-type: none"> (1) (2) 中央図書館1階と地域・行政資料室の書架を変更したことで、これまで職員の案内が必要だった資料に利用者が偶然出会えたり、自由に閲覧したりする資料を増やすことができました。 (3) 芝久保図書館の書庫に電子化済の市史編纂資料の一部が収められたことは、貴重資料の保存環境が向上したと言えます。 					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>図書館サービスの大きな柱のひとつである地域・行政資料を市民が利用しやすくすることは大切なことです。資料が増えていく中で、様々な工夫により、わかりやすい資料配置を目指した取組みは評価できます。さらに使いやすい地域・行政資料の配置が進められていくことを期待します。</p>					A

事業番号	Ⅱ-2-5-1(2)	計画内容	サービス計画－ ハンディキャップ	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・ 宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。					
5年間の獲得目標					
・ 宅配事業を推進するため、宅配希望者 80 名の登録を目標とします。					
30年度目標					
(1) 市民ボランティアを活用した宅配サービスを軌道に乗せ、宅配協力員を増員します。					
30年度実績					
<p>(1) 新たに市民協力員 2 人が加わり合計 8 人になりました。 年度途中からも含めて宅配利用は 19 人（定期・不定期含む）、利用しています。 19 人の内、職員対応が必要な方が 4 人、エリアによっては協力員でカバーできず職員が宅配している方が 4 人います。11 人の利用者に対し 8 人の協力員による宅配を実施しました。 6 月と 2 月の年 2 回、協力員に対し守秘義務の徹底、個人情報漏洩事故が起きないように研修を実施、宅配時で困ったことや改善してほしい点等、懇談会も開催しました。 宅配回数：延べ 223 回。協力員による宅配：147 回、職員による宅配：76 回。</p>					
自己評価・取組み改善点					
(1) 担当職員だけでは宅配できる件数に限度がありましたが、協力員を活用することにより、より利用者のニーズに対応できました。 今後も協力員の募集を行い人員の確保に努めた後、利用者へ PR を行います。					A
図書館協議会委員による二次評価					
<p>宅配サービスは、何らかの理由により、図書館を利用したくともできない市民にとって有効なサービスです。サービスの向上が行われ、利用者ニーズが満たされたことを評価します。 宅配市民ボランティアの協力は事業を拡大するうえで有効な方法です。今後ともプライバシー保護に配慮して、図書館へ来たくとも来られない人にサービスが広く届くよう期待します。</p>					A

事業番号	II-2-5-新	計画内容	サービス計画－ハンディキャップ	担当部門	ハンディキャップ
中間報告以後の実施計画					
・多文化サービスの検討と事業整備を実施します。					
5年間の獲得目標					
・多文化サービスの事業開始を目指します。					
30年度目標					
(1) 多言語でのおはなし会を実施します。					
30年度実績					
<p>(1) 「にはんご教室（公民館事業）」に参加されていた中国・韓国・フィリピン出身の方による『英語・中国語・韓国語できくいろんなことばでたのしむおはなし会』を、柳沢図書館及び保谷駅前図書館にて開催しました。</p> <p>柳沢図書館では平日の夏休みに開催し 29 人の参加、保谷駅前図書館では 1 月の日曜日に開催し、24 人の参加がありました。</p>					
自己評価・取組み改善点					
<p>(1) いずれも親子連れだけではなく大人のみでの参加もあり、なかには韓国の方や英語圏（出身は不詳）の方も参加されていました。日本語を含めた 4ヶ国語の読み聞かせや挨拶のほかに、各国の文化等を紹介しました。</p> <p>アンケート結果では、柳沢図書館の回では 92%・保谷駅前図書館の回では 100%「楽しかった」と回答があり、継続してほしいという意見もありました。</p> <p>参加は日本人が多いですが、他国を知るといふ点では興味をひきつけることができました。次年度はひばりが丘図書館および芝久保図書館での開催を予定しています。</p>					B
図書館協議会委員による二次評価					
<p>多文化サービスとしては、日本人参加者が多言語多文化に触れ、「楽しかった」と感想を持つことは多文化共生の地域づくりに貢献するので、実施事業は大いに評価できます。また、日本語学習中の外国人参加者が講師として母語や得意な言語を用い、多くの人々の前で絵本を読むことは、彼らの社会参加でもあり、多文化共生事業として評価します。しかし、地域に住む日本語を母語としない方達の参加が少なく、今後はより参加者を多くするように企画や広報活動を積極的に行っていただきたい。</p>					B